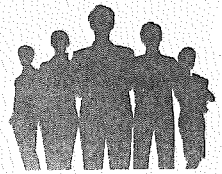


産業技術センター

共に歩む

第9回



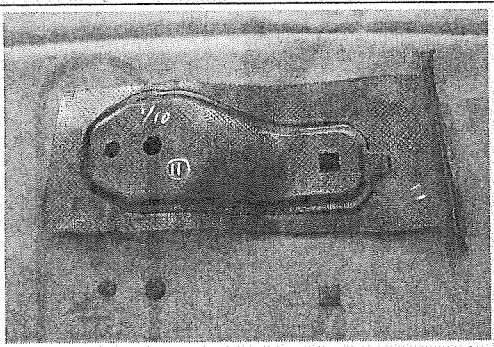
づくり研究機構・センター 輪郭形状への
の共同で取り組ん 切断(トリミ
だ。具体的には、連続織
維織布(強化材)を積層
したシート材を作製し、
既存の金属プレス機で成
形可能とする技術を開発
ためのリブの
形成等が挙げ
られる。これ
らの加工は硬
いCFRPに
対して切削加
工等で行われ
ているため、工具寿命のつ、今回の事例のよう
に、さらに工夫を加え
ることで革新的な製品を
生み出すことが可能とな
る。そこで、CFRPの
射出成形によるリブのハイブリッド成形品

今回は、伊勢崎市の浅野と群馬産業技術センターで共同開発を行った「CFRPのハイブリッド成形技術」を紹介する。「開発の背景」環境問題の高まりから、地球温暖化への対策として低炭素社会を実現するための取り組みが急務となっている。自動車業界では、化石燃料を直接の動力源

軽量化の手段として、従来の鉄鋼材料と比較して製造コストが高く、一般にCFRPを適用するためには、低コストの加工方法が重要となる。CFRPの成形技術は、熱可塑性樹脂を母材とするCFRPを用いた自動車用の大型複雑形状部品を1分以内で成形する技術の開発には、浅野・群馬工業高等専門学校・地域産学官連携の2次加工として、製品

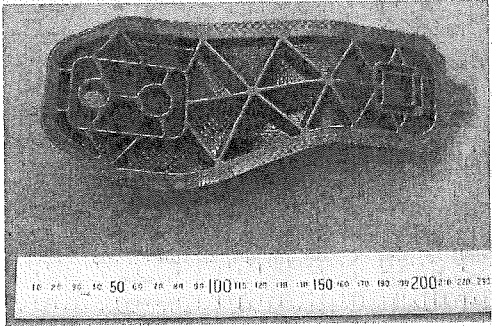
CFRPのハイブリッド成形技術

浅野



プレスによる形成、トリミング及びピアシング

従来から非鉄金属材料を含め他の軽量材料素材の加工方法が重要となる。CFRPの成形技術は、熱可塑性樹脂を母材とするCFRPを用いた自動車用の大型複雑形状部品を1分以内で成形する技術の開発には、浅野・群馬工業高等専門学校・地域産学官連携の2次加工として、製品



射出成形によるリブのハイブリッド成形品

今後の課題は、さらなる研究機関・技術支援、人材育成などを行う。浅野・群馬工業高等専門学校・地域産学官連携の2次加工として、製品

鋼木哲志